



知ること
で未来を
切り拓く

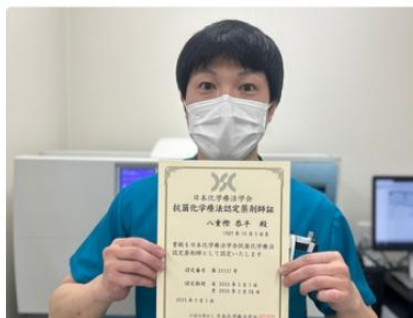
KITAKAMI SAISEIKAI HOSPITAL

薬剤科 八重樫 恭平さん

抗菌薬化学療法認定薬剤師に合格！！

薬剤科の八重樫恭平さんが、抗菌薬化学療法認定薬剤師に合格しました！！

抗菌薬化学療法認定薬剤師とは何か。八重樫さんが挑戦した理由や、今後の展望についてお話を伺いました。



抗菌薬化学療法認定薬剤師とは

日本化学療法学会が認定する資格で、感染症に対する抗菌薬の適正使用に関する高度な知識と実践力を持つ薬剤師を対象としています。単なる支援役ではなく、医師とともに治療方針を考える「治療のパートナー」としての役割が期待されています。

認定を受けるためには、抗菌薬化学療法に5年以上関わっていること（施設長などの証明が必要）や感染症患者に対する治療に自ら関与した15症例の報告、認定試験などの要件があります。

申請時に提出する15症例の報告は、薬剤師としてどのように感染症治療に介入したかを具体的に示す必要があり、感染症の種類と原因菌、使用した抗菌薬の選定理由と投与設計、TDMや処方変更などの介入内容、さらにはその介入によって得られた学びや考察（文献的裏付けを含む）などが求められます。

感染症治療に本気で取り組みたい薬剤師にとって、まさに“臨床の最前線”で活躍するためのパスポートのような存在です。

やりがい・魅力とは

感染は薬物動態という学問をフルに活用できることが魅力です。

適正な抗菌薬使用ができ、患者さんがよくなった時や、医師から院内のプロトコルに基づいて診療の支援を任せられた時は、とてもやりがいを感じます。

臨床検査科の鈴木さんと二人三脚でグラム染色や培養に取り組み挑んだ試験でしたが、微生物細胞に魅了されて観察するのが楽しくなってきました。



未来へ・・・

岩手県では感染症を専門に診る医師があまり多くありません。医療資源が少ない中で、この地域でも標準的な治療が行えるような環境にしていきたいです。タスクシフトが提唱される中で、医師けん引ではなく、薬剤師から抗菌薬適正使用を進めていき、ASTの活動を充実させ、患者さんの受けられる医療がよりよくなるよう取り組んでいきたいです。

将来的には、後進の育成や勉強会の開催など、中部圏域全体のスキルアップなどにも寄与できるよう、医師をはじめとする多職種のみなさんとの信頼関係を大切に、今後も自己研鑽に励みたいと思います。

夢へ向かって
臨床の最前線で活躍する薬剤師

北上から世界へ 理学療法士が初の国際学会へ挑戦



リハビリテーション科 菅原 優帆さん

世界理学療法連盟学会

WPC2025 (World Physiotherapy Congress)

2025年5月29日から31日の3日間、世界理学療法連盟学会が東京国際フォーラムで開催されました。日本で開催されるのは1999年の横浜での開催以来2回目、四半世紀ぶりの開催です。

世界の理学療法学会としては最大規模。各国・地域の社会的・政治的背景が研究テーマに大きく影響しているため、世界の最前線を体感できる貴重な学会となっています。

今回は世界120か国から5,000人以上の理学療法士が参加、3,355の演題登録があり、最新のリハビリ技術や研究成果の発表のほか、各国の医療現場の取り組みなども紹介されました。

国際学会へ挑戦のきっかけ

養成校時代の同期から声を掛けられ、自分が現役でいる間に日本での開催はないと思い、挑戦することにしました。

実は、高校生の時world leaders summitに参加。英語には自信があったのですが、思ったようには話せず、いつか英語で何かに挑戦しようと勉強していました。

国際学会への挑戦をきっかけに今はフランス語、中国語も勉強しています。

e-posterで発表

「A Case Report of Severe Traumatic Brain Injury Patient Who Acquired Assisted Walking Within 4 Months.」というタイトルで症例報告。

発表・質疑はすべて英語で行われ、英語が不得手な私は積極的に討議に参加することはできませんでしたが、国際的な理学療法の潮流や各国の理学療法の実情を把握することができました。

臨床の理学療法士として進むべき方向性が確認でき、今後は社会ニーズに対してもしっかりと科学の観点から提言できる療法士を目指したいと思いました。



EBMからEBPTへ

科学的な根拠と患者の意向や価値観を尊重した質の高い理学療法を展開できるよう、使う側から、作る側へ。医療の未来をデザインしていきたいですね。

今後の展望

日本では、国民皆保険により、誰でも高品質な医療を安価で受けられる体制が実現されています。より水準の高いリハビリを誰もが受けられるようにしていきたい。「リハビリで当院に入院したい」そう言ってもらえるクオリティにしていきたいですね。



理学療法士とは・・・

私にとって理学療法士とは、究極のお節介業です。患者さんが良くなることをひたすら望んで、常に最善を尽くし、最終的に喜んでもらえることがシンプルに嬉しい。

だからこそ、自分たちが提供してきたリハビリを検証し、さらにより良いものを提供できるよう今後も自己研鑽に励みたいと思います。

第23回日本ヘルニア学会学術集会で発表

2025年5月23日、24日にアイーナ（岩手県民情報交流センター）、マリオス（盛岡地域交流センター）で開催された第23回日本ヘルニア学会学術集会へ当院外科医師と共に参加。

「腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術での臨床工学技士スコピストに対する評価表の導入」と題して演題発表しました。スコピスト業務は2021年から可能となり、当院も昨年から開始したまだ確立されていない業務です。今回、初めて学会に参加して臨床工学技士の必要性のアピールや教育、技術向上・維持の難しさを感じました。当院の取り組みが少しでも他の施設の参考になれば嬉しいです。



医学と工学の知識を併せ持つ医療機器のスペシャリスト

臨床工学技士とは、病院や診療所などで血液透析装置や人工呼吸器、人工心肺装置などの生命維持管理装置を操作したり、院内にある医療機器をいつでも安全に使えるよう保守・点検したりする医療技術者です。

英語ではClinical Engineer（CE）と呼ばれ、医学だけではなく工学に関する専門知識が求められます。

臨床工学技士のタスクシフトは、医療現場における業務の効率化と医師の負担軽減を目指しており、2021年7月9日の臨床工学技士法の改正により、静脈路への輸液ポンプやシリンジポンプの接続や生命維持管理装置の操作、血液浄化装置の操作の業務が追加されました。

医療技術の進歩に伴い、医療機器はより高度に複雑になっており、医療職の中で最も医療機器に長けた専門職として、現代医療に欠かせない存在となっています。

MISIRU

人を知る・思いを知る

最新のインタビューを通して、注目の職員に光を当て、思いや取り組みを知ることのできる広報誌「MISIRU（見知る）※」では、それぞれの場所で創る未来や未来を想像して今を創るNEWSな人を特集します。

コミュニケーションツールとして、また当院の魅力再発見にお役立てください。

取材依頼・取材へのご協力もよろしくお願いいたします。

※見知るには「見て理解する」、「思いに気づく」という想いが込められています。

KITAKAMI SAISEIKAI HOSPITAL

